

ガーネット、サマータウン、グローバル・イシューズ案内 ——英語教材のフィクション対ノンフィクション——

横山 孝一*

(2020年11月25日受理)

はじめに

本稿では、英語の読み物のシリーズを3つ紹介する。ガーネット・オラクル・リーダーズは若い学習者を対象としたオリジナル小説のグレイディッド・リーダーで、多彩なジャンルが楽しめる。サマータウン・リーダーズは小さなシリーズながら、忘れがたい独創的な作品と出会える。ガーネット同様、ここでしか読めない書下ろしの創作だが、社会人、特にビジネスマン向けなのが特徴だ。企業内の人間関係や悩みが共感を呼ぶように書かれている。最後のグローバル・イシューズ（地球上の諸問題）は、アメリカのナショナル・ジオグラフィック社が国内のハイスクールの学生のために編集したシリーズだ。解決の難しい環境問題を衝撃的なカラー写真と共に紹介するノンフィクションである。私たちが住む地球の危機的状況は、ガーネットとサマータウンのフィクションにある意味、凌駕しているかもしれない。読者はどちらに軍配を上げるのだろうか。

1. ガーネット・オラクル・リーダーズ

ガーネット・オラクル・リーダーズ (Garnet Oracle Readers) は、見出し語 400~1,250 語まで4つのレベルに分けた全 16 冊のグレイディッド・リーダーだ。挿絵またはドラマ風の写真入りで、1 冊は 30~40 頁ほど。本というより小冊子で、気軽に読めるシリーズになっている。特色は、本シリーズの編集者を務めている Peter Viney の個性が発揮されていることだ。40 年以上、英語を教え英語教育教材を書き下ろしてきたという彼が 16 冊中、実に 11 冊を書き下ろしている。内容は SF、サスペンス、ホラー、パスティーシュ、ユーモアなど様々で、作者の豊かな才能が感じられる。シャーロック・ホームズの贋作も手掛けるほどなので、コナン・ドイルに代表される娯楽作品に精通しているのだろう。オックスフォード・ブックワームズでも活躍するグレイディッド・リーダー

作家の Jennifer Bassett と Tim Vicary も参加しているが、Peter Viney の好みに合わせて類似の物語を書いたようだ。宇宙人にさらわれる Vicary の *The Visit* は、Viney の *Zoo Diary* と同じネタだし、*The Hitchhiker* は、シリーズを締め括る Viney の *A Tidy Ghost* のオチを隠す役割を果たしている。Tim Vicary の直球勝負に対し、Peter Viney は常に変化球を用意し、そのひねり具合に読者は満足するはずだ。一方、シリーズの第1作を任された Jennifer Bassett は、Level 3 で秀作 *Milo* を書いた。2079 年の未来を予見するこの物語は、Viney の *Sunnyvista City* 同様、近未来の社会問題を見通したディストピアもので、Viney の *Space Romance* に比肩する感動と味わいがある。Bassett は、Viney の期待に十分応えたといえよう。唯一の例外は、無名作家の Julia Allen と Margaret Iggulden が共作した *African Adventure* だ。内容に問題があり、玉に瑕だ。筆者は、Peter Viney の *Underground* が最高におもしろかった。以下、16 冊のあらすじを紹介する。

Level 1 (400 語)

1) *The Watchers* (Jennifer Bassett)

夏休み Jim と妹の Stella はクレタ島に遊びに来ている。新聞でクノッソス宮殿の地下にたくさん洞窟があることを知り、現地人の Nikos の案内で泊りがけで探検に出かける。しかしそこには、5 m もある黄金のポセイドン像を守るため兄妹の石像 Taras と Aketa が 3 千年ものあいだ目を光らせていた……

(石像の Taras の独白、探検に出る 3 人のダイアログ、新聞記事から構成され、英語教材らしい工夫と文学的な試みを両立している。人間はみな黄金を見ると自分のものにしたがる。その兆候を見せた 3 人がポセイドン像の前に殺されてしまうラストはショッキングだ。)

2) *Zoo Diary* (Peter Viney)

夢ではない。気がつくと、緑色の肌に黄色の目をした

*人文科学系・英米文学

腕が4本あるZok星人Zargに監視され、寝るときは床が柔らかくなる宇宙船の一室に閉じ込められていた。女の子を家に送ったあとカリフォルニアからさらわれてきたのだ。Zok星の動物園に入れられるために……

(アメリカ人の若者Wayne Armstrongの日記。動物園ではイエローキャブ、信号、古いテレビと共に公開される。こちらからは来園者の姿は見えず、友人もできて居心地もよくなる。地球には3か月の旅で戻れるが、地球時間は120年が過ぎる。知っている人はみな死んでいるので帰る意味がない。70年が過ぎて、89歳になった「ぼく」は、宇宙を旅してまだ28歳のZargと再会。地球のことは知りたくもない。——日記とダイアログからなる、短いユーモラスでちょっと悲しい物語。不思議な味わいがある。)

3) *The Locked Room* (Peter Viney)

気がつくとき見知らぬ部屋に監禁され、自分が何者か思い出せない。銃を持つ男に脅され、薬を飲み、また眠りにつく。双眼鏡で屋敷を覗いているところを後ろから銃で殴られてここに運ばれたのだ。自分はいったい何をしていたのか……

(鍵が鍵穴につけたままとわかりドア下から紙を出してペンで落とし、鍵を得て脱出。盗品のピカソを別室に見つけ通報。屋敷の住人だった名画専門の大泥棒カップルが逮捕され、記憶を失った主人公は警官から「おまえはコソ泥のEddieだ」と知らされる。(テレビドラマかと思うような迫力あるカラー写真が挿絵代わりに使用されている。ユーモラスなオチがつくサスペンス。)

4) *The Collector* (Peter Viney)

2014年8月1日、英国のスーパーマーケットで映画『恐竜時代』のパッケージのケログ・コーンフレークを探す謎の男Clinton。スーツ姿で女性店員に‘madam’と呼びかけ外国人と間違えられるが、知り合いのTildaも来週のアンティーク・フェスティバルのためにトワイニングの紅茶を買いに来ていた。コーンフレーク代しか持っていないClintonは、物乞いをまねて食事代を得ようとするが警察を呼ばれるはめになり、ハンバーガー店で残飯を片づけるアルバイトをする……

(様々なワクチン接種をして過去の世界にやって来た彼の目的は、コレクターの間で高値がつく商品を買って転売することだった。翌朝、目当てのコーンフレーク3箱とTildaをまねて紅茶を1箱入手するが、タイムマシンのリモコンをなくし、2561年の世界に帰れなくなってしまふ。「未来では100万ユニットの価値があるコーンフレークも、ここではただの朝食にすぎない。しかも、牛乳がない!」というオチが笑える。)

Level 2 (750 語)

5) *The Visit* (Tim Vicary)

Harry Evans 巡査は勤務中、道路上にバスより大きな物体が浮いているのを目撃。様々な色に変化する光と、音楽のような音に恍惚とする……

(宇宙船は飛び去り、Harry 巡査は警察署に戻る。あったことを話ると、Barker 警部に叱られ、同僚に馬鹿にされる。親友のJim Deacon 巡査は、様子がおかしいHarryを目撃していた女性の話を聞き、彼女が抱く赤ん坊には何かが見えていたらしいことを知る。宇宙船の着陸跡でHarryが拾った白い粉は鑑識係の女性が調べようとして袋を開けたとたん悪臭を放って消滅。Harryは、精神科医の催眠術で時間をさかのぼり、宇宙船内で鼻も口もない大きな1つ目の華奢な宇宙人に調べられたことを思い出す。この報告書を読んだBarker警部は、彼に警察をやめるよう申し渡す。Harryは湖畔に車を残して失踪。Jimは円形の白い粉に気づくが、すぐに消えてしまう。——UFOに遭遇した人の典型的な体験談。何のひねりもないが、ミステリアスな余韻がある。)

6) *Underground* (Peter Viney)

ロンドンの地下鉄。母がジャマイカ人のロンドン大学の学生Craigは深夜、優勝で盛り上がるマンチェスター・ユナイテッドのサポーターにからまれるが、やがて乗客の姿もなくなり、ホームでお茶を飲む清掃作業員の仲間に加わる。夜間に駅を掃除する夏休みのアルバイトに来たのだ。地下鉄の歴史に詳しい60歳すぎのElsaもジャマイカ人で、第二次世界大戦中、1940年に空襲で200人もの人々が亡くなって閉鎖になったChurch End駅について話してくれた。面倒見のいい彼女は、構内でフルートを吹いて小銭を恵んでもらっている老人Tommyが妻を自動車事故で亡くして以来ずっと口のきけぬことを知っていて、食事を差し入れたりもする。Craigは、Church End駅の完全閉鎖工事中に内部を見に行き、転倒。気を失っている間に閉じ込められてしまう……

(助けてくれたのは、Tommy老人だった。なんと彼は、構内の使われなくなった大型エレベーター内にベッドやラジオを持ち込んでそこを自宅にしていたのだ。迷宮と化した地下鉄内を熟知し、Elsaのもとへ無事連れ戻してくれたのである。——『オペラ座の怪人』の影響も感じられるだろうが、なかなかユニークな味わいの物語で、本シリーズ中の傑作の1つに数えられる。)

7) *Strawberry and The Sensations* (Peter Viney)

人気ロックバンドStrawberry and The Sensationsのツアー最終公演1時間前。中止しないとリードボーカル

の Cyndi を殺すと脅迫状が届いたと警察本部長が駆けつける。集まった 6 千人のファンを落胆させるわけにはいかず、Cyndi は恐怖に震えながらも仲間には黙ってコンサートを決行。舞台を警官隊が守り、観客が席を立てて踊ることは禁止するが……

(照明のやぐらの上から狙撃されることを、Cyndi は気づいてマイクを投げつけ、武器を落とさせる。顔面に怪我を負うが、犯人は逮捕され、警察の中止命令を振り切って Cyndi は公演を最後までやり遂げる。警察本部長もすっかり Cyndi のファンになってしまい、サインを求める。——イチゴ色の髪と衣装をトレードマークにする Cyndi のプロ魂が魅力的。挿絵は下手だが、その存在感は表現できている。)

8) *Casualty!* (Peter Viney)

土曜日の夜、コンサートを終えた大スター Alex Hayle が自動車事故で救急病院に運ばれてくる。顔面を負傷したうえ背骨が折れていた。絶対安静が必要なのに、葉巻を吸う、感じの悪いマネージャーは私立病院に移すと言い張り、強行。看護師の Gail は、スイスで整形手術を受けて復帰した Alex が別人だと確信し、看護師として Alex が移った私立病院を調べることにする……

(果たして、Alex は無名の男として病室に隔離されていた。Gail は彼を助け、報道機関に連絡を取る。現実味の乏しい異色作。)

Level 3 (1,000 語)

9) *Sunnyvista City* (Peter Viney)

誰もが 8 時に目覚めることになっているのに、6 時半に起きた Dan。葉が混入されているらしい 3 度の食事を食べずにいたおかげだ。記憶も戻ってきて、働く必要がなく水泳やテニスを楽しむ毎日に疑問を持ち始める。パートナーの Tina は 8 時ちょうどに起き、過去の記憶を持たないことを気にもかけていない……

(Dan は、指導員の Russell を殴り倒し、ヘリコプターに隠れて脱出。疲れた感じの管理者 Jenny Travis から真相を聞く。——コンピューターが大部分の仕事奪い、失業者たちが騒乱を起こして社会問題化した。10 年前にオープンした Sunnyvista City はその解決策だった。Dan は戻ることをきっぱり拒み、不便でも外の世界に留まって働くことにする。AI 時代にいかにもありえそうなディストピアもの。ジャンル特有の雰囲気がいい。)

10) *African Adventure* (Julia Allen and Margaret Iggulden)

Karen (18 歳) は英国からケニアへ父の友人の McCall 博士を手伝いに行く。多くの人々が盲人になる river blindness という風土病を治す秘密の特効薬を現地の女 Rose から聞き出す通訳の仕事だった。Karen は、博士がその情報をアメリカの製薬会社に売って百万ドルの金を手に入れるつもりなのだと確信する……

(Rose も McCall 博士を信用せず Karen にだけ、特定の樹木の葉を煎じてつくる特効薬の秘密を教える。しかし、Karen は自白剤を飲まされ、博士に置いてきぼりを食う。旅の初めに知り合った女性の助けを得てナイロビに戻り、知人の記者を連れて国際機関に訴えに行く。ところが、そこには特効薬の情報をケニア人のために無償で提供した McCall 博士がいて、すべては Karen の誤解だったことが判明する。——この物語の馬鹿らしい勘違いに感心する読者はいるのだろうか。)

11) *Life Lines* (Peter Viney)

手相をコンピューター診断する会社 Astra Astrology で宣伝担当の Rachel は、「手相占いコンサルタント」の肩書を持つ。そのため、世界大戦を例に掌の生命線の占いは無意味と批判を受け、プログラムを作った同僚の Mark に頼んで、集まったデータを基に手相の生命線に根拠があるかどうか調べてもらう……

(Chatford の住民の 75% が短い生命線を持つことがわかり、そのことを社長の Mervyn に知らせようとしたが、ロールスロイスを乗り回す Mervyn は金儲けが目的で、手相など信じていかなかった。愛想を尽かして会社を辞めた Rachel (彼女も生命線が短い) は、新聞記者に転身して自分で真相を調査に行き、Chatford が故郷だった Mervyn と現地のホテルで偶然再会。その夜、突如、この街の老朽化した原発が大爆発を起こして何千人もの死者が出る。ニュースで知った Mark は、恐怖に震えながら手相分析のデータを削除する。——論理的に無理があるが、最後のオチは強烈で圧倒される。)

12) *Milo* (Jennifer Bassett)

2064 年 75 歳の老女 Sally Gardiner が 10 歳の孫娘 Lola に 25 歳になったら読むようにと託した 2014 年のノート——25 歳の私は Devonshire の Dartmoor にある田舎町で教師をしていたが、土日にくつろぎに行く小さな池で孤独な謎の少年 Milo と出会う。学校だという謎の屋敷で 10 歳の彼は、アインシュタインが使うような高度な数学を学んでいた。コンピューター管理された門のプログラムを書き換えて抜け出してきたという……

(そこでは、遺伝子操作によって優秀な頭脳を持って生まれた子供たちが集められ、未来のリーダーになるべく秘密裏に世界一流の科学者たちから英才教育を受けてい

た。ヘリコプター4機と共に Milo たちは姿を消したが、Sally は Lola に新時代に目立ってきた冷淡な成功者に注意を促す。2079年、25歳になった Lola は祖母の手記を読み、それを見せると、夫の Sim はまさにそのように育ったエリートの一人だと明かした。不足する食料や水をめぐって戦争が起こらないように情報を管理する支配層は必要だと説いて。——本シリーズ中、屈指の傑作。21世紀現在(2014年)にしてはずいぶん牧歌的な英国の田舎で、勉強せずに釣りを楽しむ Sally の弟 Tom が Milo と対照的に描かれている。親のいない孤独な Milo と唯一の理解者になった Sally の友情が美しく、現実味のある SF 設定とオチの冷たさが際立っている。)

Level 4 (1, 250 語)

13) *Space Romance* (Peter Viney)

人口が増えすぎた地球から 10 年かけて植民地 Orelia Planet Five へ向かう巨大宇宙船の *The New Adventurer*。交代制で2週間ごとに freezer で冷凍睡眠に入ることによって老化を5年に短縮できる。シカゴ出身の Beta 4927 こと Gareth (26 歳) は果樹園を管理する技術者で、日本人の Hiroshi らとジムで汗を流し仲良く暮らしていたが、船室を共有する、交代勤務で会うことのない Alpha 3461 がシャワー室に花のイヤリングを落としたのを見つけて女性と知り、規則を破ってレモンの花を添える。彼女、教育係の Sara (23 歳) は水道の蛇口にメモを隠し、二人は連絡を取り合うようになる……

(Sara が歴史教材にテレビドラマの題名として *I Think I Love You* とメッセージを残し、それに Gareth が続編に見せかけて Two (Too の意) と書き込み、コンピューターを欺くところがいい。先に出発した宇宙船よりも後に開発されたほうが先に目的地に着くとか、長旅の間に船内に王国ができたり、やっと着いた星よりも船に住み続けることを人々が選択するといった宇宙開拓史も楽しく読める。物語は果樹園の爆発事故で Gareth が Sara と同じシフトに変わり、彼女に会いに行くところで終わっている。その先が気になるところだが、障害で盛り上げた恋愛ものなので、このオープンエンディングは当然の結末かもしれない。)

14) *The Hitchhiker* (Tim Vicary)

警官の Sue は、流行遅れのスーツを着た40歳くらいのヒッチハイカーを車に乗せてやる。その直後、交通事故の生々しい現場を通る。ナビも知らず古めかしい英語をしゃべる男は異様に怖がり、ランカスターの墓地で降りる。急停車して追突事故を起こしたタクシー運転手は、

急に飛び出した男をひき殺してしまったと思ったが錯覚だった。20年も前の1995年、トイレに行こうと道路に飛び出した幼い息子を助けるために父親が車にはねられて死ぬ事故があったが、関連はあるのか。Sue は、墓地で花を捧げて祈る大学生の姿を見かけるが……

(Sue は、大学を卒業する息子に付き添うあの男性の姿を見るが、他の人には見えないようだった。彼女はまた彼を車で送る。やはり交通事故で死んだ David Holland だった。墓地につくと、車をすり抜け姿を消す。花が供えられた David の墓石には「彼は息子のために自分の命を与えた」(He gave his life for his son.) と彫られていた。出だしのミステリアスな感じがいいが、オチがわかると読者の好みも分かれるだろう。幽霊話というよりも、家族愛を描いたファンタジーとして読むと楽しめるかもしれない。)

15) *The Case of the Dead Batsman* (Peter Viney)

1889年7月、私(ワトソン医師)がベイカー通り221b番地を訪れると、シャーロック・ホームズは、村対抗のクリケットの試合で球を額に受けて死亡した新婚の農場主の悲劇に事件性を見出していた。2週間前に同チームで同様の死亡事故が起こっていたのだ。ホームズは私を誘い現地 Havelock 村へ。クリケットの試合に足の悪い私も出場させ、自ら審判を買って出て、3人目の殺人を防ごうとする……

(コナン・ドイルの人気シリーズの贗作。朝食に食べたものやインドの軍歴などをおなじみの推理で当ててみせ、‘Elementary, my dear Watson’ と言って種明かし。シャーロック・ホームズのファンは喜ぶだろう。鉄道新設の情報を先取りし農場主を殺して土地を買い占めるつもりだった悪役 Dr Lennon の薬と催眠術はリアリティに乏しいが、雰囲気は名作「まだらの紐」を彷彿とさせる。)

16) *A Tidy Ghost* (Peter Viney)

不動産業者2社がインターネットで紹介していた築2年の家を電話がすぐ通じた方に案内してもらって購入。住人と入れ替わりに引っ越した Marilyn と Rick は、仕事から帰宅後、郵便物やベッドが整っていることに恐怖する。整理整頓好きの幽霊が住んでいるのか? ある夜、二人が帰ると家の中でタバコの煙の臭いがして赤い口紅のついたタバコの吸い殻が庭に落ちていた。散歩に出た Marilyn は、近所に住む老人から、新興住宅地の High Trees Park は何世代も続いた大農園の跡地で、喫煙の習慣があった農園主夫人が若く亡くなり、家の中で吸わせないかった几帳面な農園主が何者かに惨殺されたことを聞き、寒気を感じる。古い煉瓦が見つかり、家が、築200年の農園の母屋の跡に建っていることもわかった。

数日後、流感で会社を休んだ夫婦は、階段を上ってくる足音を聞く……

(冒頭から伏線を張り、納得の結末。もう一方の不動産業者が家が売れたことを知らずに昼間、客を案内していたのだ。幽霊話が喜劇に変わる瞬間が痛快だ。)

2. サマータウン・リーダーズ

サマータウン・リーダーズ (Summertown Readers) は、グレイディッド・リーダーのオリジナル小説集ということで、ガーネット・オラクル・リーダーズと同種の本と見なせる。大きな違いは、対象がビジネスマンという点だ。主人公も、ホテル・経理・広告・ソフトウェア・ダイヤモンド・化学会社の社員やコンサルタントで、子供や若者を主人公にした一般のリーダーとは異なる。本の作りも、活字が小さめで挿絵もなく頁数は100頁に満たないものの、1頁あたりの文字数が多くぎっしり詰まる。各章題の下には、本文の要点を押さえる問題が出され、それに答えられれば物語展開が理解できる仕組みだ。

*Superstar*ではまだ大学生気分が抜けきっていない入社6年の比較的若い社員が主人公なのに対し、*Meet Me in Brazil*では20年勤めるベテラン社員の出張中の冒険を扱う。*Sink or Swim*では社内での理不尽なパワハラが、*Awayday*では重役たちの思いがけぬ苦難が描かれ、会社で働く英語学習者の共感を得ようと意識した内容になっている。

何が起きているのか突きとめるサスペンスの手法は、読者の注意を引きやすく、グレイディッド・リーダーのオリジナル小説集では多用される傾向にある。作品数の少ない本シリーズでも、*Meet Me in Brazil*、*Peril in Venice*、*Ekaterina*などがその典型といえるが、たどり着く真相が陳腐化されている場合が多い。David Evansの*The Top Floor*はその点、意表を突く終わり方をしていて驚かされる。*Sink or Swim*はアンチクライマックスのきらいがあるが、時間をさかのぼる語りの工夫は評価できる。

グレイディッド・リーダーのシリーズは、オリジナル小説集の場合、参加作家の質によって善し悪しが決まる。本シリーズでは、James Schofieldの存在が際立っている。サスペンス小説では凡庸な一方、ユーモア小説ではかなり成功しており、一読の価値がある。1作目の*Room Service*はマルタ・日本・ボルネオのホテルを舞台にした英国人カップルの短編集。楽しく読めて気に入る人も多いだろうが、圧巻は、双子の騒動をおもしろおかしく語った*Double Trouble*だ。この小説と出会えるだけでも、サマータウン・リーダーズは価値がある。

Pre-Intermediate

1) *Room Service* (James Schofield)

世界各地のホテルを舞台に英国人カップルの騒動を描いたユーモア短編集。3作品とも、とても楽しく読める。

① *Room Service*

小説家志望のRichardはマルタで知り合いのホテルを手伝っている。そこに人類学を研究している25歳の大学院生Elizabethが学会の開催場所になるか視察に来て、二人は意気投合。しかし、下心丸出しの指導教授 Dr Butcher が合流。自宅の妻を電話でだまして、くどきにかかるとRichardはホテルの同僚と妨害し、最後は、Elizabethを追ってロンドンへ帰る。

② *Fish Legs*

本物の日本を知るために東京を離れ小さな漁村の日本旅館に滞在するRichardとElizabeth。生臭い魚料理に閉口し、こっそりゴミ箱に捨てたらそれが臭い出して謝罪するはめに。海で思わぬ日焼けをして痛い思いまでして散々だったが、週末は日本人の団体客が訪れフィリピナのショーもあって大いに盛り上がる。思いがけずステージに上がらされた二人はフラダンスを踊らされ、カラオケで拍手喝采を受け、忘れたいひと時を過ごした。英語を喋る支配人関口氏のおもてなしもいい。

③ *Brooke's Hotel*

Richardは、Elizabethの大学の面接に付き合っ一緒にボルネオ島へ。ゴキブリが大の苦手なので値段の高い伝統のあるホテルに滞在するが、念のため使用した殺虫剤のせいでバスルームはゴキブリの死骸だらけになり夜中に片づけるはめに。小説の題材を求めて覗きに行ったホテルの厨房でもゴキブリと遭遇し、文字どおり格闘するはめになる。一方、Elizabethは希望どおり職を得るが、浮かない顔で苦悩を告白。じつは大のネズミ恐怖症で、この地ではネズミの種類が豊富で食材になっていることを知り、とても住めないとわかったという。

2) *Meet Me in Brazil* (Julie Woodward)

Harrison Logistics Ltdに約20年勤めるまじめ社員Mike Carringtonは昇進を前に初の海外出張へ。行き先はブラジル。ところが迎えたのは別人だった。睡眠薬入りのコーヒーで眠らされ、気がつくとき監禁されていた。同名の別人と間違われて拉致されたのだが、計画は変更されブラジル人のPauloは会社に身代金百万ドルを要求し、植物園に妻のHannahを来させることに。Mikeは見張りのMauricioをトランプに誘い、酔わせて酒瓶で頭を殴って夜中に森の中に逃げ込む。一人暮らしの老女Dona Marciaに助けられ、甥のSergioの車で警察へ。百万ドルの大部分はMikeを名乗っていた謎の国際犯罪者が持ち逃

げしたが、主人公のMikeは1週間遅れで出張を果たし、ブラジル警察のWashington Pinhoからハイドパークで妻と捜査結果を聞く。Pauloたちは、Mikeの名前を騙った犯罪者の強盗計画を横取りしようとしたらしい。

3) *Superstar* (Doug Campbell)

大学のときバンドをやって結構人気があった僕Johnnyは、卒業して6年になるのに音楽業界に未練がある。会計士の仕事に退屈し、クラブの前座に出ていたthe Bus Driversの才能を確信して、マネージャーを買って出る。貯金をはたいてスタジオで本格的なデモテープを制作し、目標のテレビ番組*Talent Tonight*に出演。地元の新聞とラジオに宣伝して、クラブでのコンサートには会社からバスを出して応援。ボーカルのTiffanyが人気になり、辛口審査員のLouiseがベースギターのSteveのみを失格にして彼がバンドを去るハプニングもあったが、そのまま優勝できそうな勢いだった。しかし大手レコード会社との契約を目前に、テレビ視聴者が電話投票で選んだのは、歌詞を忘れて同情を買った赤毛の少年Gingerだった。いつしかでしゃばるようになっていたTiffanyの彼氏が自ら個人マネージャーになって独立を宣言し、バンドは解散。僕はやめた会社に戻った。その後、プロのバンドで演奏しているという元気なSteveと再会した。

(平凡なサラリーマンが本当にやりたいことは何か考えて再び夢を見る物語。厳しい現実には敗れるものの、その挑戦の過程は活気にあふれ、人生の輝く瞬間をとらえている魅力的な一冊だ。)

4) *Peril in Venice* (James Schofield)

マレーシア人でハーバード・ビジネススクールで学んだEmily Lee 28歳は悲惨な結果をもたらした会社の横領事件を解決し、疲れきっていた。2週間の休暇をとってヴェネツィアの小島にあるヨガ・センターに滞在。しかし、大学で化学を学びインドに渡ったというDoctor Caliban Leoneの調合したハーブティーを飲んで意識を失い、おかしな振る舞いをしたと聞かされる。早朝3時に目撃したボートは密輸に関わっているようで、怪しく感じる。休みの後半は、同僚のFilippoにヴェネツィアの街を案内してもらおうが、センターの常連客だったDJのTuckerがドラッグで急死したことを新聞で知る。Emilyのスーツケースに入っていた錠剤を頭痛薬と思って飲んでFilippoが幻覚を見て一時的におかしな行動をとる。センターの料理長のPaoloが謎の溺死。スーツケースを詰めてくれたフィリピンから出稼ぎに来ているMariaが行方不明になると、犯罪はもう明らかだった。Filippoは警察と組んでDoctor Leoneに不法薬物の購入を申し入れ、罫にかける。が、黒幕は、センターでタロット占い

をしてくれたニューヨーク出身のDotty van Meese夫人だった。Emilyと一緒にゴンドラで行ったレストランで銃を向けられるが、機転で取り上げ、警察に引き渡す。

(作者のJames Schofieldはヴェネツィアの観光案内の要素も取り入れているが、犯罪小説としては展開が陳腐すぎて、退屈な出来だ。)

5) *Double Trouble* (James Schofield)

ロンドンの広告会社で新車のテレビコマーシャルを任されているNickは週末、BMWでデボンにある実家(双子の兄Timothyが、作家が副業の妻Gwynethと暮らす農場)に帰る。一息つくつもりだったが、起用したロシア人のトップモデルTanyaがスキャンダルを起こし降板。代わりのCMを考えるため日曜日に会議を招集することになった。ところがNickは農場自慢のヤギLady Loisに腹を蹴られ戻れなくなり、なんと、瓜二つのTimothyがNickの代役を務めることに。洪水のため孤立し電話さえ通じない中、ド素人のTimothyは、度胸と機転と幸運でチームをまとめ、社長の令嬢でNickが破局しかけていたJemimaとの関係も、彼女がNickに贈った『1・2・3、尊敬にもとづく大人の関係の築き方』という本を実践することで好転。頑固な父Louisに環境テーマの新車CMへ変更を認めさせ、ヤギのLady Loisを起用した画期的なCM制作にこぎつける。一方、農場でNickは、ポーランドから学びに来ている素朴なWandaに恋していた。CM撮影で双子は入れ替わったが、NickはJemimaを怒らせ、間に入ったTimothyが鼻を殴られ、JemimaはLady Loisに蹴られ、Nickは社長から首を言い渡される。しかしCMはヒットしてヤギは人気者になり、NickはWandaとロンドンで農場直営店を経営、ロマンスに飽きたGwynethは犯罪小説に転向して人気が出て、Timothyの農場経営も安定した。

(作者のJames Schofieldはユーモア小説が実にうまい。本作は文句なしに楽しく読めるお勧めの傑作だ。)

6) *The Top Floor* (David Evans)

ロンドンの大学で1年学び帰国が決まっていたMahaは、大学のバーで知り合ったKieronにパブやナイトクラブに連れて行ってもらい、都会の楽しさを知る。ビザが切れるのに「人生は一度きり」と彼の友人を通じて怪しげな秘書の仕事を紹介される。中身が不明の木箱が上の階に運ばれるとき受け取りのサインをする。それだけでいい給料がもらえるのだが、運送人は不健康そう。ネズミが死んでいるのを見つけ、ロシア語で「危険」と書かれていた箱の中身が気になる。運搬を手伝っていた紹介者のOllieも入院してしまった。雇い主の貿易商Geroge Hurstの名乗っていた小柄な外国人は向かいの事務所の会計士Harry Samirと判明。留守が多いHurstの事務所を

勝手に使い、彼の名義とMahaを利用して違法な毒物を密輸しているのだ。ところがMahaは泥棒として本物のHurstに閉じ込められ、窓から入ってくる黒猫のVisaに手紙をつけてKieronに出してもらおうが、HurstはHarryと知り合いでMahaの話信じない。上の階の木箱はHarryがすでにバンに移し終えたあとだった。黒猫のVisaが死んでいるのをMahaは毒物の証拠と訴えるが、猫の名前を聞いた警官は彼女を不法滞在で逮捕する。Kieronはバンのハッチを必死で開けようとするが、鍵がかかっていた。パトカーは去り、それが彼とMahaの永遠の別れとなった。(意表を突くラストには驚かされる。ミステリー小説は、箱の中身を明かさないうまま、最後の最後で外国人の不法滞在を戒める教訓物語に変わった。)

Upper-Intermediate

7) *Ekaterina* (James Schofield)

ダイヤモンドを生産する7 Continents社の総会でCEOのSir Gilbert Villiersのプレゼン中、スクリーンに「私はEkaterina。私は11歳。私は死んでいる」と謎のメッセージが映し出される。コンサルタントのロシア人KirillはSir Gilbertの妻Tatyanaがバレリーナだった頃の元恋人で、彼女の妹Irinaの案内で10年前に閉鎖されたKazbakistanの採掘場を調査。娘Ekaterinaが廃液漏れが原因で中毒死し失意の妻も亡くしたコンピューター技師Sergeiにたどり着くが、Sergeiは自宅アパートに侵入した暗殺者によって墜落死。一方、女性コンサルタントのMaceyはロンドンでSir Gilbertの大学時代の親友で環境団体ECO Warriorsの代表Dr Roy Marsdenを調べる。彼はSergeiの7 Continents社を告発する資料を預かったまま、ギャンブルの借金を団体の資金で穴埋めしていたことをDurban Diamonds社のPiet Hoodjinkに脅迫されていた。7 Continents社を貶めて、南極のダイヤモンド採掘権を代わりに取らせ自分も利益を得るつもりでいたのだ。(Kirillがネズミ恐怖症でIrinaが人類学者という設定は**Room Service**を思い起こさせるが、作者Schofieldの本領はやはりユーモア小説にある。オペラ『オセロー』を観たMarsdenがイアーゴの奸計を称え現実では悪事は見つからないと言う伏線は悪くないが、ユーモアを封印した本作は凡庸な失敗作と言わざるを得ない。)

8) *Sink or Swim* (Andy Cowle)

Eddieはソフトウェアの会社で精力的に働き、チームのリーダーとしてロシアへの売り込みに力を注いでいたが、ゴルフ三昧の上司 Dominicから嫌がらせを受け、首にされてしまう。その16年後、豪華客船のカリブ海クル

ーズで思いがけずDominicと再会。深夜Eddieは怒りにかられて甲板で殴り合いの喧嘩をしてしまい、Dominicはその後失踪。警察の捜索が始まる。物語は過去へ戻る。Eddieは会社を去ったあと無気力になり、妻のLynnに危うく去られそうになって奮起。会社を興し、どんどん大きくして成功をつかんだ。結局、Dominicは会社の金を横領していたことが判明。自殺と認定されて、ハッピーエンドになる。(ビジネスマン向けのシリーズらしく、会社での上司のパワハラや同僚とのやりとりが生々しく描写されていて、とても興味深く読める。)

9) *Awayday* (Chris Faram)

英国の化学会社ICCの重役たちが土曜日にDerbyshireで登山をさせられる。一夜を明かす頂上にはテントが用意されておらず、寝袋も人数分ない。一行の議論は人事部長のGreg Blightが盗聴して有用な人材かどうか評価しているのだった。しかし、イタリア人のBeanoが滑落で負傷してヘリコプターで病院に運ばれる事故が発生。ギャンブル狂で借金が多く前借りを頼むCharlieは同僚たちの様子をGregに報告させられ、スパイのような気分になる。GregはさらにKentの古城に重役たちを集め、牢に閉じ込めて犯罪の模擬裁判を行なわせ、映像を分析する。激しい国際競争のために、ICCは重役たちを雇い続ける余裕がなくなってきたのだが、理由はそれだけではなかった。重役たちは避難訓練で、ガス漏れ事故が本当に起こったように見せかけ真っ先に逃げたGregを笑いのものにして仕返しをしたが、彼は少年時代に工場で父を亡くし、週末の勉強会を楽しんで責任を取らなかったお気楽な重役たちを恨んで復讐していたのだった。しかしCEOのRalf Hammerは語る。いまや誰もが生存競争にさらされ、私さえも政府や株主や妻の重圧に耐えている。(奇抜な物語だが、ミステリーの要素は薄く盛り上がり欠ける。大学時代にT. S. エリオットを研究し、英詩は実社会で何の役にも立たないと知って経営を実地で学びマーケティング部の重役になったBeanoの人物像が魅力的だ。退院後も、看護師が世話するために休みを取って自宅に押しかけるほどだ。)

3. グローバル・イシューズ

グローバル・イシューズ(Global Issues)はいわゆる環境問題を扱ったノンフィクションのシリーズ。合衆国のティーンエイジャーが学校のグループワークで活用できるよう編集されている。気候変動・エネルギー資源・食糧供給・国際化・動物の生息地・健康・人権・移住・汚染・人口増加・生活水準・水資源という12のテーマで

各3冊（それぞれ事例研究を2つ特集）合計36冊からなる。一見テーマは多様なようで、すべては、増えすぎた人類が物質の豊かさを求め地球環境が絶望的に悪化していくさまを捉えている。全体の読後感は単調で、筆者は退屈した。以下、具体的にどこの国がどのように取り上げられているかを概説する。

1) *Climate Change 1*

ホッキョクグマの生息地である南極の氷が消えていく。ほとんどの科学者によれば、人間が化石燃料を燃やして温室効果ガスを排出することで地球温暖化が起こっているためである。世界中で気候変動の被害が見られ、コスタリカでは熱帯雨林の伐採をやめ、植林と保護に転向。憲法で「生態学的にバランスの取れた環境」を保障し、エコツーリズムの聖地になっている。また水が黄金と同じくらい貴重と知ったオーストラリアは、太陽光などの再生可能エネルギーで気候変動と闘っている。南極大陸は生きる地球の鼓動として見守る必要がある。「私」にできることは何か？——化石燃料の使用を減らし、地域社会に働きかけて木を植えよう。

2) *Climate Change 2*

地球温暖化は海水の温度も上昇させハリケーンを強化、その通り道にあるカリブ海の島が被害にあっている。ハイチでは相次ぐ洪水に苦しみ、マンゴーやアボカドの木を植えて対策。一方、アメリカの自治領で道路や橋が整備されているプエルトリコも気候変動の影響下にあり、サンゴ礁のほとんどが死滅。鉄道を敷いて自動車の利用を減らしている。エンペラーペンギンが暮らす南極大陸は科学者・探検家・旅行者が訪れるだけなのに人間がもたらした気候変動の影響を受ける。2002年、ラーセン棚氷に亀裂が入って氷山に分離する現象が観測された。氷が溶けて水位が上がり、吸収する二酸化炭素によって海水が酸化。餌となる小さな生物が減って、エンペラーペンギンは50年で半減してしまった。南極の自然を守るため、世界各国の観測所が協力している。

3) *Climate Change 3*

グアテマラも気候変動の影響をもろに受け、収穫量が激減する事態となっている。森林の伐採が土石流につながっているので環境団体の指導で植林に取り組む。またミクロネシアの環礁で暮らす人々は海面の上昇を警戒。海水が流れ込めば、住居や耕作地が被害を受けるのはもちろん、帯水層の水が飲めなくなる。浸食を防ぐ手段としてマングローブが注目されており、オーストラリアが植林を支援している。

4) *Energy Resources 1*

化石燃料は気候変動の原因であり、やがては枯渇する。水力発電を筆頭に再生可能エネルギーへの転換が必要だ。ブラジルはダムを活用。ロシアは豊富な石油と天然ガスを輸出する一方、風力や地熱エネルギーを利用している。T. H. Culhaneは微生物を使って食品廃棄物をガスに変えるバイオガスリアクターを発明、NPO団体Solar CITIESを率い、発展途上国だけでなく合衆国やドイツでも普及を図る。エネルギーの使用を減らす運動を広げよう。

5) *Energy Resources 2*

アルゼンチンは天然ガスと石油が豊富で輸出もし化石燃料にエネルギーの9割を依存しているが、資源の枯渇とエネルギー需要の増大が予想される将来を見据え太陽エネルギーを取り入れることにした。ロシアに次ぐ世界第2位の産油国サウジアラビアも同様だ。財政の8割が石油から来ているが、新設のアブドラ国王科学技術大学は持続可能エネルギーを大胆に活用し、石油への過度の依存を改めようとしている。

6) *Energy Resources 3*

世界で5番目に大きなブラジルは1970年代の石油危機以来、バイオ燃料の一種であるエタノールの生産と利用に力を入れてきた。サトウキビが原料として使われる。1932年に発見して以来、石油に依存してきたバーレーンは隣国よりも早く枯渇が予想され、グリーンエネルギーへの転換を急ぐ。バーレーン世界貿易センタービルは、風力タービン3基を備える。一人当たりのCO₂排出量が世界一のカタールは、豊富な太陽光の活用を開始した。

7) *Food Supply 1*

世界では約10億人もの人々が飢えている。アメリカ・カナダ・EUの人口を合わせた数だ。かつてインダス文明が栄えたパキスタンでは近年、洪水の被害にあい食糧難に苦しむ。ソマリアは干ばつに政情不安が加わって飢饉になっている。食糧の増産や調理は気候変動につながりかねないので、環境団体は太陽エネルギーの活用を促す。なお、ボランティアとして青果の栽培を手伝うとよい。

8) *Food Supply 2*

インドは人口の2割が飢え、空腹の子供の数は世界一である。1960年代に始まった「緑の革命」は地下水の枯渇や農地の荒廃をもたらしたので持続可能な工夫が必要だ。マリでは少ない農地をうまく活用し、エシャロットとキビの栽培を促進し、前者は世界市場でも注目を集めている。

9) *Food Supply 3*

洪水に苦しんでいたバングラデシュは洪水と共生する。入り込んだ海水でエビやカニを育て、塩に強い米を栽培し、収穫量を倍増させた。チョコレートの主原料であるカカオ豆を栽培するコートジボワールは貧困に苦しみ、子供が働き手となって奴隷として売られることもある。公正取引と教育の普及が問題解決の鍵となる。

10) *Globalization 1*

アメリカ人がはくジーンズも今や世界中で分業されて作られている。仕事を生み出し安価で買えるのが「国際化」のメリットだ。敗戦国のドイツは東西統一を経てEU一豊かな国になった。好景気の労働力不足は移民を受け入れることで解決したが、生粋のドイツ人との間に軋轢も生じている。一方、第二次世界大戦に敗れた日本も、自動車・CD・ロボットなどの最先端技術で世界第3位の経済大国となった。アラバマにトヨタやホンダが自動車工場を持ち、東日本大震災や竜巻があったとき互いを見舞う人的交流も進む。Ken Banksはインターネットを使わずにメール連絡ができるソフトをアフリカ人のために開発し、辺鄙なところでも医療が受けられるようにした。

11) *Globalization 2*

貧しい共産国だったポーランドは民主化し、2004年にEUの仲間入りをして経済が発展、立派なサッカースタジアムを建設するまでになった。毛沢東の時代貧しかった中国も国際化の恩恵を受け、世界第2位の経済大国に。2030年までに中流階級は合衆国の4倍になる見込みだが、格差と公害が問題化している。

12) *Globalization 3*

ギリシャは通貨がユーロに変わってから浪費に拍車がかかり、国民は税金を払うことを嫌い、EUが援助する。国際化による観光業の興隆が救いになっている。韓国は、財閥企業が国際化の恩恵を受けて、ヨーロッパ人の平均よりも裕福になった。アメリカの大学の留学生も韓国人がいちばん多い。税金が安いぶん社会福祉は弱く、少子高齢化で65歳以上の貧困が問題化しつつある。

13) *Habitat Preservation 1*

世界人口の増加と経済活動により生命維持システムである生物の多様性が危機的状況にある。動植物の生息地を守ることが急務だ。ケニアでは、象牙めあての密猟者からゾウを守り、母親を殺された子ゾウの世話が行なわれている。オーストラリアでは、グレートバリアリーフが泥水の被害にあい、ドキュメンタリー映画がきっかけでサトウキビ農園主らが対策を講じる。1960年に45万頭

いたライオンは50年で2万頭にまで激減した。アフリカで野生生物の映画を撮りつづけるJoubert夫妻はBCI (the Big Cats Initiative) を立ち上げ、保護活動を支援する。

14) *Habitat Preservation 2*

ナミビアは南アフリカの支配下にあったときは白人の地主に狩猟を認める一方、黒人の農民の伝統的な狩りを密猟として取り締まった。1990年に独立すると、憲法に環境保護を明記して野生生物は増加。エコツーリズムを国の経済の中心に据える。アマゾン、コンゴに次いで熱帯雨林の多いパプアニューギニアでも木の伐採が問題化。希少動物のキノボリカンガルーを守るため、アメリカ人科学者Dr. Lisa Dabekが奮闘し、国の保護地域ができる。

15) *Habitat Preservation 3*

25万種が生息するマダガスカルは人口増加と伝統的な焼き畑農業のために、キツネザルのインドリなどこの島にしかない希少動物の生息地が激減。若木を植えエコツーリズムで環境保護を促進する。南極は観光地となり、誰の国でもないため管理が難しい。意図せず持ち込んだ侵略種やマナー違反の環境に与える影響が懸念される。

16) *Health 1*

フランスの平均寿命は81歳。パリで生まれた人は孫ばかりか曾孫にも会えるかもしれないが、コンゴ生まれの子は大人にもなれないかもしれない。ナイジェリアでは、政府職員のヘルス・レンジャーが母子の健康をチェックし、3つ子を妊娠している女性の異変にも気がついた。WHOはマラリア感染を防ぐため蚊帳を提供し、子供を持った親に栄養について教育する。ルーマニアは未熟児が多く子供はヨーロッパ人より小さい。栄養失調が原因でユニセフと政府が対策を講じる。アフリカで絶大な人気を誇る歌手Feliciano dos Santosは、「手を洗おう」と感染防止を歌い、モザンビークの故郷にきれいな水を贈った。健康意識を高めるため、学校で健康フェアを開こう。

17) *Health 2*

100年もアフリカを悩ませてきた髄膜炎に対抗し、WHOとアメリカの政府機関とインド企業が協力してワクチンを開発した。イタリアのサルデーニャ島は長寿で注目を集める。日本の沖縄など他の「ブルーゾーン」同様に、肉よりも野菜・果物・豆類を食べ、大食はせず仕事で体を動かし、家族と信仰を大切に人が長生きする。

18) *Health 3*

シエラレオネのような貧しいアフリカの国の子供たちを胃腸炎で死に至らしめていたロタウイルス。薬では治

せず予防が一番とわかっていたが、ワクチンは金がかかり採算が取れないので開発されていなかった。しかし、2000年にビル&メリング・ゲイツ財団が動き、アフリカの子供たちの多くの命が救われるようになった。資源が豊かなウクライナでは若者の飲酒や喫煙で成人病が蔓延。ボクシングの元チャンピオンのKlitschko兄弟が無料のジムを開設するなど、健康志向の予防が始まっている。

19) *Human Rights 1*

1994年、南アフリカで大統領を選ぶ初の民主的選挙が行われた。アルゼンチンは軍事政権が敵対する人々を多数逮捕する恐怖政治を敷いたが、フォークランド紛争の敗北で民主主義が復活し、軍事政権下の罪が裁かれている。7千以上の島からなるフィリピンは統一されたことがなかったため、あっさりスペインの植民地支配を受けた。独立後選挙で選んだマルコス大統領は任期が切れても戒厳令を敷いて居座り、イメルダ夫人と王族のような生活をつづけた。暗殺されたベニグノ・アキノの未亡人が大統領選に敗れ、不正を疑った国民が反乱を起し、民主主義が復活した。スーダンの内戦を逃れた“Lost Boys”の一人John Dauは、アメリカの教会の支援でシラキュース大学で学び、祖国の発展のために尽力している。

20) *Human Rights 2*

チリは経済の悪化から社会主義者を大統領に選び共産革命の寸前までいったが、ピノチェトの軍事政権が取って代わり、財産の国有化を防いだ。しかし、独裁政権下で千人以上が逮捕され行方不明になっている。民主化後、当時の罪を追及。2006年には初の女性大統領が誕生した。ミャンマーも1962年から2011年まで軍事政権が支配し、旧ビルマを英国から独立させた英雄アウンサンの娘であるアウンサンスーチーは父を暗殺されオックスフォード大学で学び国際世論を味方につけ1991年ノーベル平和賞を受賞。軟禁されながらも、民主化運動を成功に導いた。

21) *Human Rights 3*

ヴェネズエラでは前政権に反抗して人気を得て大統領になった軍人チャベスが権力に固執し、憲法を改正して再選を可能にする一方、言論の自由を圧迫し、批判者を不当に逮捕。世界が注視する。1万7千もの島からなるインドネシアは香辛料を求めたオランダの元植民地だ。第二次世界大戦後、スカルノが独立を宣言するが贅沢を好み議会制民主主義を害して、スハルト将軍に取って代わられる。しかしスハルト政権も腐敗して、共産主義者を虐殺し反対者を逮捕するなど多くの人権を蹂躪した。経済危機に対応できず1998年辞任。現在では経済が改善し国情も安定してきたが、人権はまだ不完全である。

22) *Migration 1*

より良い仕事を求めて貧しい国々から先進国の大都会に移民が集まる。ニューヨーク市とその近郊は人口の3割（500万人）を占め、多様性と活気をもたらしている。永住にはグリーンカードが必要で、英語と米国史を学ぶ。ロンドンも移民200万人が集まり人口の3割を構成するが、旧植民地出身者が多いのが特徴。経済の活性化に効果があったが、不況時に帰国する者も多い。遺伝学者のSpencer WellsはDNAを基にアフリカから人類がどのように移動したか調査。国内の移民と異文化に興味を持つ。

23) *Migration 2*

メキシコシティは国内の農村から仕事を求めて人々が集まり、違法の物売りなどで生計を立て、家も自力で建ててスプロール化が進む。人口は2,000万以上に達して、国内人口の83%が都市部に集中する異常事態に陥っている。アムステルダムはスリナムなど旧植民地を中心に移民が人口の3割を占める。経済の活性化につながったが、多文化主義のまま統合が進まず分断も懸念される。

24) *Migration 3*

カナダのトロントは住民の高齢化のため移民（人口の半分）を積極的に優遇し、能力に見合った職につけるようプログラムを充実させ満足度が高い。多文化を歓迎し「多様性を力」とする一方、カナダ人としての統合にも力を入れる。マドリッドはスペイン語を喋れる旧植民地のラテンアメリカ人に人気がある。移民は不況時は帰ってもらおう方針だが、旧植民地出身者は市民権を取得しやすく、高齢化のスペインを支える力となっている。

25) *Pollution 1*

空気・水・土地の汚染は人の健康を害する。アメリカ合衆国は世界最大の経済大国なので出すゴミも多い。3つのR(reduce, reuse, and recycle)を実践して買い物にはマイバッグを持参することがゴミの削減につながる。カザフスタンとウズベキスタンの間にあるアラル海は、ソ連時代に砂漠を農地に変える大胆な灌漑政策で干し上がり農薬で汚染され漁業に大打撃を与えたが、復元努力で魚も増えてきた。レジ袋やペットボトルなどのゴミはマイクロプラスチックとなって海上を広範囲にわたって漂う。ペットボトルをリサイクルして造った船*Plastiki*でDavid de Rothschildは調査と啓発のために出航した。ゴミを減らすには、町でリサイクル活動を広めるとよい。

26) *Pollution 2*

メキシコシティは毎日400万台の車（3分の1は20年以上前の旧型車）が走り、盆地のためスモッグが上空に

とどまる。汚染物質で子供は肺が成長せず、学習能力も減退。そこで市は、地下鉄の増設、電気自動車タクシーの導入、シェア自転車の普及を図る。旧ソ連がモデル工業都市として建設したマグニトゴルスクも、大気汚染がひどく気管支炎・喘息・肺癌が蔓延して、健康な子供は100人に1人という少なさ。浄化は簡単ではない。

27) *Pollution 3*

カナダのアルバータ州は油砂が豊富で、世界的な石油需要の高まりと隣国アメリカの輸入拡大から森林を伐採して大々的な石油精製が始まった。その結果、環境汚染が深刻で奇形の魚も現われるようになった。1940年代後半に旧ソ連が核兵器を製造する過程で大量の核廃棄物を投棄したテカ川は、汚染がわかっていながら近隣住民にいまなお悪影響を及ぼしつつけている。発癌率は通常の2～4倍で、新生児の3分の1が障害を持って生まれてくる。汚染の規模と被害はチェルノブイリ原発事故よりもはるかに甚大で、浄化は大変な作業となるだろう。

28) *Population Growth 1*

2011年10月30日に世界の人口は70億に達した。19世紀初頭は10億人、20世紀初めは20億人だった。世界一人口の多い中国は、1979年に共産国ならではの一人っ子政策(one-child policy)を始めたが、それにより急激な人口の高齢化を迎えることになった。民主主義国のインドは中国を抜かず勢いで人口が増えているが、都市のスラム化が問題になっており、教育(特に女子教育)が解決の鍵となる。農業生態学者Jerry Gloverは食糧難は多年生植物で乗り切れると考える。アメリカ合衆国は10年毎に国税調査を行なっているが、学校でも調査して、人口の推移が地域社会にどう影響しているか考えてみよう。

29) *Population Growth 2*

日本は、80歳以上の老人たちがソフトボールに夢中になりアメリカチームと対戦するためにハワイに遠征するなどお年寄りが元気だ。しかし少子高齢化が急速に進み、若い世代に負担が押し寄せる。ロボットなどの科学技術で穴埋めできると考える者も一部いるが、政府は子育て支援策などで子供を増やそうとしている。パキстанはアフガニスタンからの難民の流入と出生率の高さから、人口が激増。食糧や仕事が少ないところにこれ以上子供が増えては困る。政府は一人っ子に教育費を出すなど子を減らす政策に着手。イスラム教の縛りがあるが、半数以上が字を読めぬ女性を教育することが解決につながる。

30) *Population Growth 3*

韓国済州島の海女(ヘニョ)は70代まで元気で働いて

いるが、人口の4分の1が集中するソウル(1945年に100万だった人口が1,000万以上に激増)の老人は生活が苦しい。少子化で国の年金制度が破綻し、親を養えない子供が多くなっている。政府は子育てを支援して子供を増やそうとしている。バングラデシュは洪水で引っ越しは当たり前。しかし、人口が密集し移住先が少なくなっている。首都ダッカは2020年には人口が2,000万を超えそうだが、その6割がスラム暮らしでは対策が必要だ。

31) *Standard of Living 1*

衣食住を確保し教育や医療を受けられるか。生活水準は平均寿命に反映される。1804年にフランスから独立したハイチは、アメリカ大陸の最貧国で平均寿命は63歳。国民の半数以上が字が読めず犯罪率も高い。2010年、そこに大地震が発生。合衆国や国連の指導で国の立て直しを行なう。トルコは政府の改革が成功して個人で事業を始めやすく、堅固な中流階級が発達した。ケニヤでは、マサイ族のKakenya Ntaiyaが合衆国の大学院で学び、故郷に初となる女子のための小学校を開校した。女子教育は多産を止め、生活水準の向上につながるはずだ。近所の困窮者に食事を提供するFood driveに協力しよう。

32) *Standard of Living 2*

コスタリカは中央アメリカでもっとも豊かな国で教育に力を入れ95%の国民が読み書きができる。平均寿命も、男性75歳、女性81歳で合衆国とあまり変わらない。エコツーリズムが成功し、幸福度も高い。対して、何十年も戦争がつづいたアフガニスタンでは平均寿命が50歳。学校も破壊され、タリバンの支配下では女性は仕事を持つことも教育を受けることも禁じられていた。しかし2004年にできた憲法は、教育を受ける権利を全国民に保障しており、明るい未来に向かって国の再建が始まっている。

33) *Standard of Living 3*

ドミニカ共和国は隣国のハイチとは対照的に民主国としてサトウキビへの依存を脱却。電力供給に苦労しているが観光業にも力を入れ、美しい海辺は観光客を集めるようになった。石油で贅沢の限りを尽くすアラブ首長国連邦は一見アメリカ合衆国と似た政治形態を持つが、人口の2割が貧しく、労働者の85%は外国人で、労働組合などの権利は認めていない。石油の埋蔵量はあと150年はもつと予想されているが、贅沢が続けられるよう国民の教育に力を入れ、経済の多様化にも着手している。

34) *Water Resources 1*

地球の表面の3分の2は水に覆われているが、真水はわずか3%。人間は生きるために必要なその貴重な水を

汚染している。インカ人が聖なる湖と崇めたチチカカ湖の水も、人や動物の排泄物や農業と鉱山の排水で汚染が進み有毒化し、飲み水には適さなくなった。ボリビアとペルーは共同で浄化作業に当たっている。メコン川では、都市化による生息地の減少、魚の養殖が原因の水汚染と細菌の増殖によって、イラワディイルカが絶滅の危機に瀕している。科学者のSylvia EarleとEnric Salaは海洋生物を守るため人間の活動を制限する海域(MPAs)をつくらせようと尽力している。近所の川が汚染していたら、沿岸のゴミを拾うなど浄化の手伝いをしよう。北米五大湖の一つエリー湖も1960年代に汚染がひどかったが、今ではきれいになり魚も多い。何があったか調べてみよう。

35) *Water Resources 2*

多くの薬の原料となる希少植物を有し、地球の大気に酸素を送り込みヨーロッパの天候も左右するアマゾン川の熱帯雨林。しかし川の水は、安易に大量の水銀を用いたゴールドラッシュ、ドリルを使った石油の採掘、肥料や殺虫剤が不可欠の農業によって汚染され、川の水と魚に頼る沿岸住民は反対運動を展開。おかげで環境を守る法律ができた。2010年までに世界最大の輸出国となって

世界第2位の経済を手に入れた中国は、その代償として川と湖を汚した。毎年、水の汚染で約10万人が亡くなる。市民が声を上げた結果、中国政府は水処理施設の建設に大金を投じるようになった。中国人が健康と富の両方を得られかどうかは、時が明らかになってくれるだろう。

36) *Water Resources 3*

ベネズエラの美しいマラカイボ湖は石油が豊富で湖上にはいくつも油井櫓が立っている。しかし、老朽化したパイプから原油が漏れ出て、付近の住民の下水や農家の農薬なども混じって湖水は汚染し、アオウキクサが大量発生。政府はマラカイボ湖の再生に取り掛かる。下水道処理施設や法律を整備し、カリブ海から流れ込む海水で塩分の多くなった水を淡水に変える工場を誘致するなど、飲めるようになるまで水質を改善しようと努力している。南シナ海は石油や天然ガスをたくさん埋蔵し多様な海洋生物が棲んでいるが、ここでも汚染が進む。シアン化物やダイナマイトを使う漁は、貴重なサンゴ礁を傷つける。東アジアの奇跡と呼ばれる経済成長のつけだが、インドネシアのバタム島は、漁村から工業地帯に変貌して公害問題に直面し、対策や規制を考えるようになっている。

A Guide for English Learners to Garnet Oracle, Summertown, and Global Issues: Fiction vs. Nonfiction

Koichi YOKOYAMA

For the sake of the Japanese learners of English who love reading, this paper introduces three different series of readers: Garnet Oracle Readers, Summertown Readers, and National Geographic's Global Issues. Garnet Oracle and Summertown are both so-called graded readers. The former are for high school and university students who study English as a foreign or second language while the latter are written for businesspeople who have to learn English as a lingua franca. Both are, however, original fictional stories, some of which are quite enjoyable and really worth reading. Peter Viney, Garnet's main author, can write a variety of genres: for example, *Space Romance* is a romantic sci-fi story in an impressive setting; *A Tidy Ghost* is a witty ghost story whose terror dramatically changes into sheer humor at the ending; but, above all, his *Underground* is highly recommended because of the unforgettable character Tommy, a mute elderly man who lives in the London underground, saving the protagonist in big trouble. Summertown's counterpart must be James Schofield. Although his amateurish suspense stories tend to be rather boring, his humorous stories such as *Room Service* and *Double Trouble* are readable with a lot of laughter.

National Geographic's Global Issues may seem to be no comparison with these interesting stories since they are serious nonfiction pamphlets edited for American high school students. Despite the foreign language, Japanese students can also appreciate the discussed, grave environmental problems of our planet Earth where the population explosion has been causing disastrous situations. In a sense, fact is truly stranger than fiction. So, which is more interesting, fiction or nonfiction? I hope you read the three series and decide for yourself.